

## 「ケータイ版担任日記」を活用した保護者連携

—コミュニケーション&コラボレーション—

三重県立名張西高等学校教諭 中野 由章

nakano@nishiko.ed.jp

### 1. はじめに

学級担任をしていると、以下のような保護者の声をよく耳にする。

- ・学校での様子を子どもが家で何も話さない
- ・学校からの連絡事項がきちんと伝わらない
- ・学校がどんな指導をしているのかわからない

われわれ学校側としては、保護者宛て文書を生徒に託せば、すべてとは言わなくても、ある程度は保護者の手許に届いていると考えているし、そう信じていた。ところが、なかなかそうはなっていないのが現状である。

しかし、視点を変えてみれば、これは生徒だけの責任であるとも言いきれない。保護者が自分の子どもや学校の様子を知りたいと思っても、学校側がそれに対応できていない場合が多い。すなわち、保護者は自分の子ども以外に、学校の情報を得る手段を持っていないのである。

それに対応するべく、学校の周囲に掲示板を設けて学校での様子を広報したり、学年通信や学級通信を発行したりするなど、従来から学校側も努力はしてきた。とはいえ、毎日のように広報紙を発行することは難しいうえ、そもそもこれが保護者に届かないのである。

### 2. 名張西高のとりくみ

三重県立名張西高等学校では、一昨年より、経営コンサルタント会社である船井総合研究所に校務全般を診断してもらい、BPR (Business Process Reengineering) を進める一方、教職員の宿泊研修を実施し、学校に内在する諸課題について、時間を気にせずとことん議論を尽くす機会を設けている。その結果、保護者との連携を深めることが肝要であり、そのための方策を講じることとなった。

情報化が進展し、かなりの数の家庭がインターネットで接続されるようになった。本校の生徒にアンケー

トをとったところ、自宅にパソコンがあり、インターネットに接続していると答えた生徒が、そうでない生徒よりも圧倒的に多く、多数の家庭がWebの閲覧やメールのやりとりができる環境にある。

そこで、学校のWebページ上に、保護者宛て文書の一部をPDF化して公開することとした。ただし、未だ試験運用の域をはず、今後の充実が課題となっている。

### 3. ケータイ版担任日記

多くの家庭でWebの閲覧ができるといっても、それができる保護者ばかりではない。ところが、携帯電話ならほとんどの保護者が所有していて、また時間も場所も問わず利用できる。そこで、この点に着目し、いつでもどこでも手軽に子どもの様子や連絡事項を保護者に知ってもらえるよう考えたのが「ケータイ版担任日記」である。

i-mode, J-SKY, EZweb等に対応した携帯電話で、通知したURLにアクセスすれば見ることができる。Webページなので、PCで見えることもできるが、PC上ではかなり貧相に感じられる。これは、携帯電話で閲覧することを想定しているため、パケット通信料や画面の大きさを考慮し、余分なものをいっさい削って、可能な限り小さく(1日1KB以内)仕上げているからである。

また、ボタン1つで担任と連絡が取れるよう、すべてのページに担任へのメールと電話へのリンクを設けてある。

家族のほか、必要な場合は関係するすべての人が閲覧できるよう、アクセス制限をかけていないので、日記の内容でプライバシーを侵害することがないように細心の注意を払っている。

日記はテキストエディタでHTMLファイルを直接書いて、サーバに上げている。使用しているタグは、<html>, <head>, <title>, <body>, <h>, <hr>, <br>, <ul>, <li>, <a>の10個で、基本的

な必須のものだけにしている。定形の文書内容を書きかえるだけなので、更新に要する時間は2〜3分、内容の推敲に時間がかかったとしても、5分もあれば十分なので、紙に印刷して配布する学級通信とは異なり、負担感はない。

「ケータイ版担任日記」について過去数回行った保護者アンケートによると、日記を楽しみにしているという意見が多い。特徴的なのは、父親は「週末に子どもと話をするネタが仕入れられる」、母親は「連絡事項が早く漏れなくわかってよい」といった感想が多いことである。

否定的な意見はなく、保護者の反応は大変好意的であるので、継続し続けることが大切であると思っている。

#### 4. サイバースペースと実世界

「ケータイ版担任日記」というサイバースペースを活用することにより、従来ではなかなか難しかった保護者への情報提供が平易に行えるようになった。しかし、これで十分であるはずもなく、並行して、「学級懇談会」も催行し、保護者間の情報交換や担任も交えての質疑応答を行っている。サイバースペースでの情報提供と、実世界での交流の2つを有機的に機能させ、保護者と学校の間の連携を密にして

いくことこそが肝心であると考えている。

実世界においては、保護者のみならず、生徒本人との意思疎通の機会を増やすため、日直を担当した生徒は、その翌日に個人面談を受けることになっている。日直日記に記入された生徒の感想に対する担任の思いを伝えたり、生徒の抱えている問題を早期に把握したりするために、通年で個人面談を行うことは大切なことだと考えている。

#### 5. まとめ

「ケータイ版担任日記」により、保護者と学校の間で新しいチャンネルができた。これを活用することによって学校から保護者への情報提供は飛躍的に充実した。情報の疎通が密になることにより、保護者と学校の相互理解・相互信頼が深まることが期待できる。また、「テストを返しました」と知らせれば、「結果はどうだったか」と保護者が子どもに問いかけることができ、家庭と学校が協力したタイムリーな生徒の指導が可能となる。

結論として、「コミュニケーション&コラボレーション」こそが、生徒と保護者と学校の間で重要であり、「ケータイ版担任日記」はそれをサポートする大変効果的なサイバースペースであるといえる。

